

●工程

- ①地直し
- ②裁断、芯・伸び止め貼り、印つけ、ロック始末
- ③裏パーツ組み立て
後身頃、前身頃、内台衿、上衿、袖
- ④表パーツ組み立て
後身頃、前身頃、ポケット、外台衿、地衿、袖、ベルトループ
- ⑤表裏パーツ合体
表裏縫い合せ、中とじ、BC ベント
- ⑥まとめ
ベルト、裾まつり、ボタンつけ&ボタンホール
- ⑦仕上げアイロン

①地直し

- ・ご家庭で洗濯するなら水通しを。ドライクリーニングに出す場合、またポリエステル素材の場合は水通しは不要。
- ・布の裏側からスチームアイロンをかけ、ゆがんだ生地をできるだけ直す。(水染みにならないよう気をつける)

②裁断、芯・伸び止め貼り、印つけ、ロック始末

【裁断】

表パーツ(計 21 パーツ)

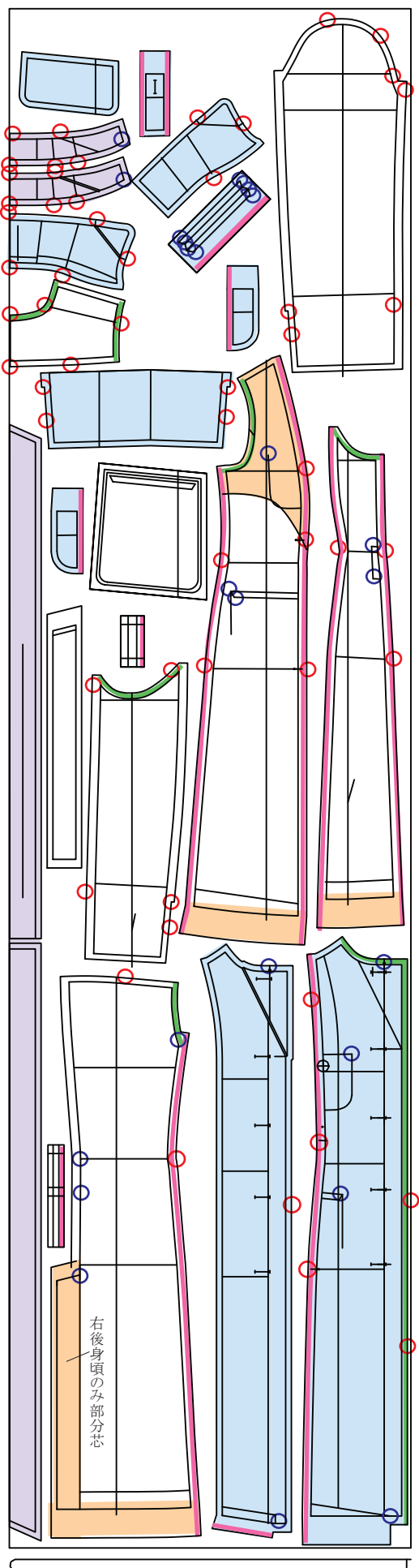
- 1、前身頃 ×2
- 2、後身頃 ×2
- 3、前脇身頃 ×2
- 4、後脇身頃 ×2
- 5、前見返し ×2
- 6、肩ヨーク ×1
- 7、上衿 ×1
- 8、地衿 ×2
- 9、外台衿 ×1
- 10、内台衿 ×1
- 11、外袖 ×2
- 12、内袖 ×2
- 13、袖口見返し ×2
- 14、胸ポケット左, 中, 右 × 各 2
- 15、フラップ ×2
- 16、表袋布 ×2
- 17、玉縁布 ×2
- 18、前ベルトループ ×1
- 19、後ベルトループ ×1
- 20、共ベルト左右 × 各 1
- 21、ベント持ち出し ×1

裏パーツ(計 9 パーツ)

- 1、前身頃 ×2
- 2、後身頃 ×2
- 3、前脇身頃 ×2
- 4、後脇身頃 ×2
- 5、肩ヨーク ×1
- 6、外袖 ×2
- 7、内袖 ×2
- 8、裏袋布 ×2
- 9、裏フラップ ×2

【芯・伸び止め貼り、ロック始末】

- ・全面芯 : パーツの全体に芯を貼る
前身頃、前見返し、表衿、地衿
外台衿、内台衿、袖見返し、ベルト
表フラップ、裏フラップ、胸ポケット左, 中, 右
- ・部分芯 : パーツの部分的に芯を貼る
前脇身頃胸、ポケット口補強、後ベント見返し
- ・6 cm幅バイアス芯…後身頃裾、後脇身頃裾、前脇身頃裾
- ・HB テープ : 伸び止め
前身頃衿ぐり〜前端、前脇身頃袖ぐり
後身頃袖ぐり、後脇身頃袖ぐり
肩ヨーク衿ぐり、肩ヨーク袖ぐり
- ・ロック始末 : 表身頃縦線、見返し裾、玉縁布下側、
ベルトループ端



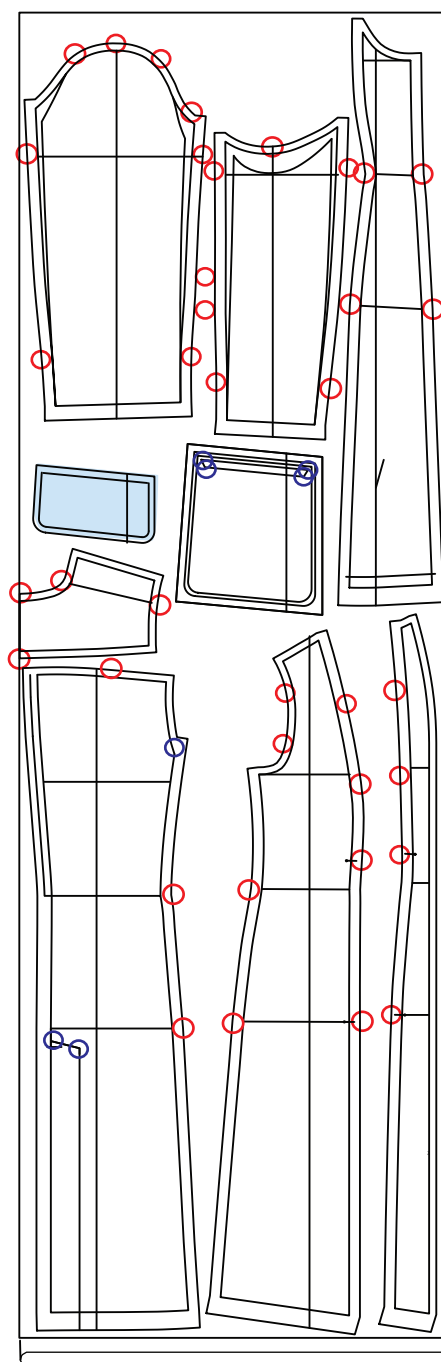
表地…140 cm幅 × 275 cm

【芯・伸び止め、ロック始末】

- = 全面芯
- = 全面芯（硬芯）
- = 部分芯（ハイス芯は5 cm幅）
- = 伸び止め、HB テープ
- = ロック始末

【印つけ】

- = ノッチ
合印に3 mmほど切り込みを入れる
- = きりびつけ
糸印。印位置に正確に刺す。



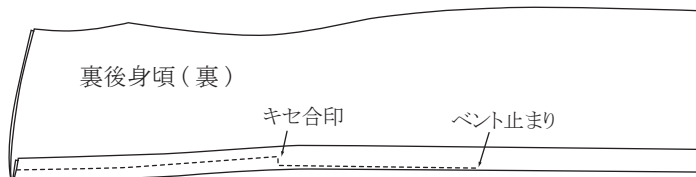
裏地…122 cm幅 × 190 cm

③裏パーツ組み立て

* 裏地の縦線の接ぎにはキセが入る。(各所指定のキセ寸法あり)

【後身頃】

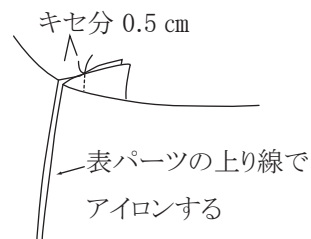
- 1、上端〜キセ合印まで縫い代 1.0 cm、キセ 1.0 cm。
キセ合印〜ベント止まりまで縫い代 2.0 cm で縫う。
* 縫い代は左身頃側に倒す。



<キセの入れ方>

実際の上がり線より 0.5 cm 裁ち端寄りを縫う。

そして上がり線は縫ってあるかのようにアイロンする。→運動量を確保するため。



〜裏地にキセアイロンをかけるのが難しい場合〜

出来上がり線 (表パーツの線) を粗ミシンで縫い (できればしつけ縫い)、

キセをかけて本縫いする。(0.5 cm 縫い代側を縫う)。

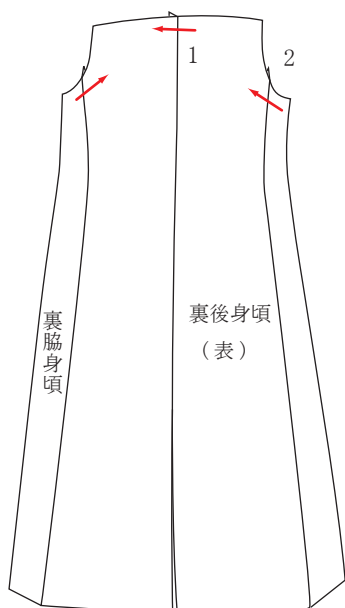
全て完成したらその粗ミシンをほどく。多少針跡は残るが、
綺麗にキセがかかる。

たんだキセが開かないように、
縫い代に押さえミシンをかけておいてもよい



- 2、後身頃と後脇身頃を 1.0 cm で縫う。キセ 0.5 cm。

* 縫い代は 2 枚一緒にロック始末し、後身頃側に倒す。



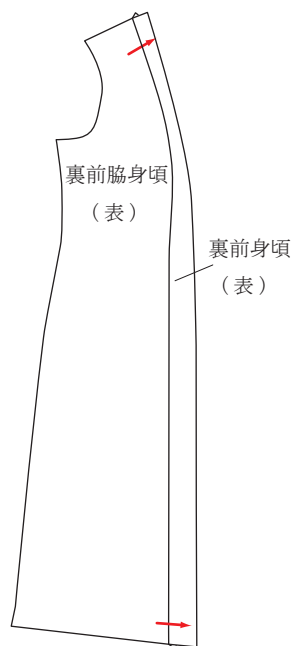
- 3、肩ヨークを 1.0 cm で縫う。キセなし。

* 縫い代は肩ヨーク側に倒す。

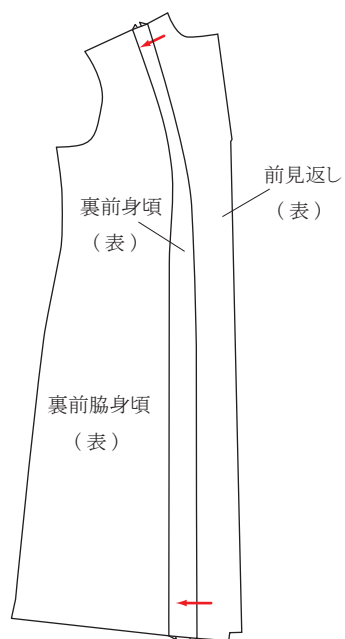


【前身頃】

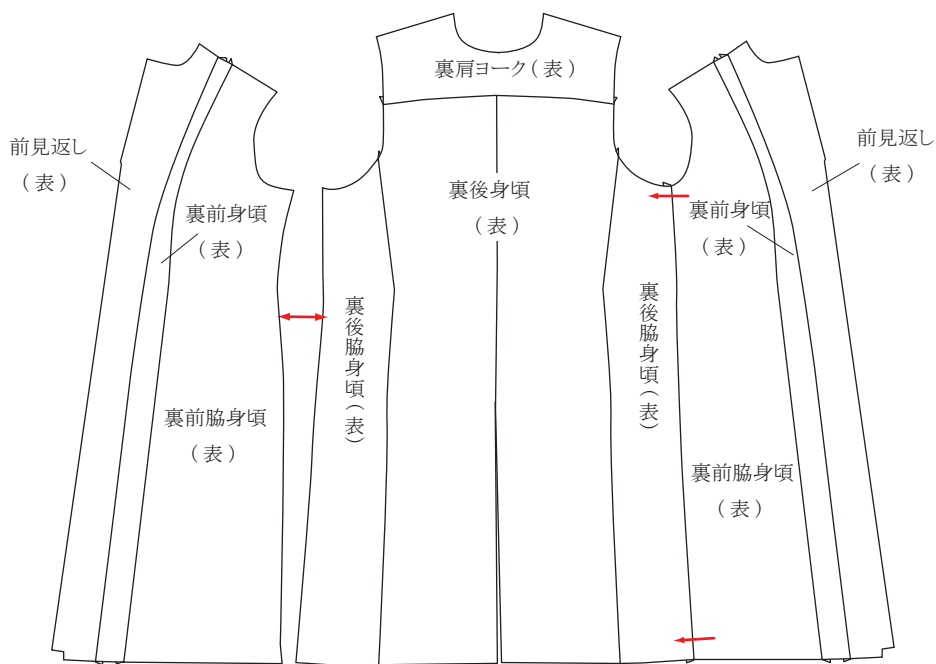
- 1、裏前身頃と裏前脇身頃を1.0 cmで縫う。
縫い代を2枚一緒にロック後、
0.5 cmのキセをかけて前身頃側に倒す。



- 2、前見返しと裏前身頃を1.0 cmで縫い、
縫い代を2枚一緒にロック後、裏前身頃側に倒す。
ここはキセをかけない。

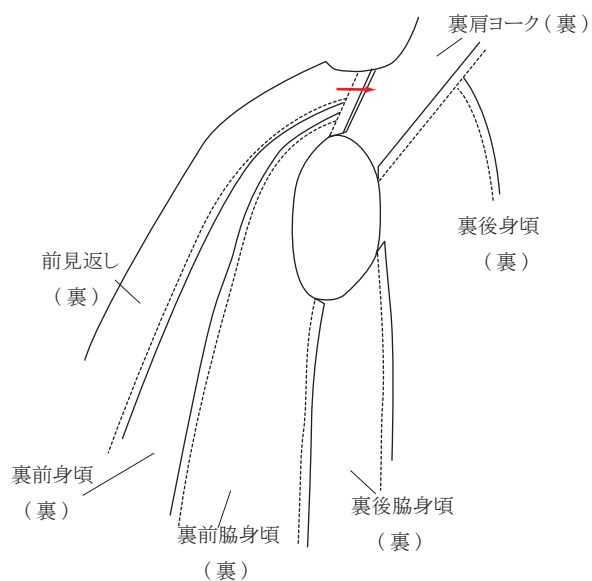


- 3、裏前脇身頃と裏後脇身頃を1.0 cmで縫う。
縫い代を2枚一緒にロック後、0.5 cmのキセをかけて裏後脇身頃側に倒す。



- 4、同様にもう一方も縫い、ロック→キセをかけて縫い代を倒す。

5、前後身頃の肩を 1.0 cm で縫い、縫い代は肩ヨーク側に倒す。



【衿つけ】

1、表衿と内台衿を合印を合わせて 1.0 cm で縫う。

縫い代に切り込みを入れて割る。

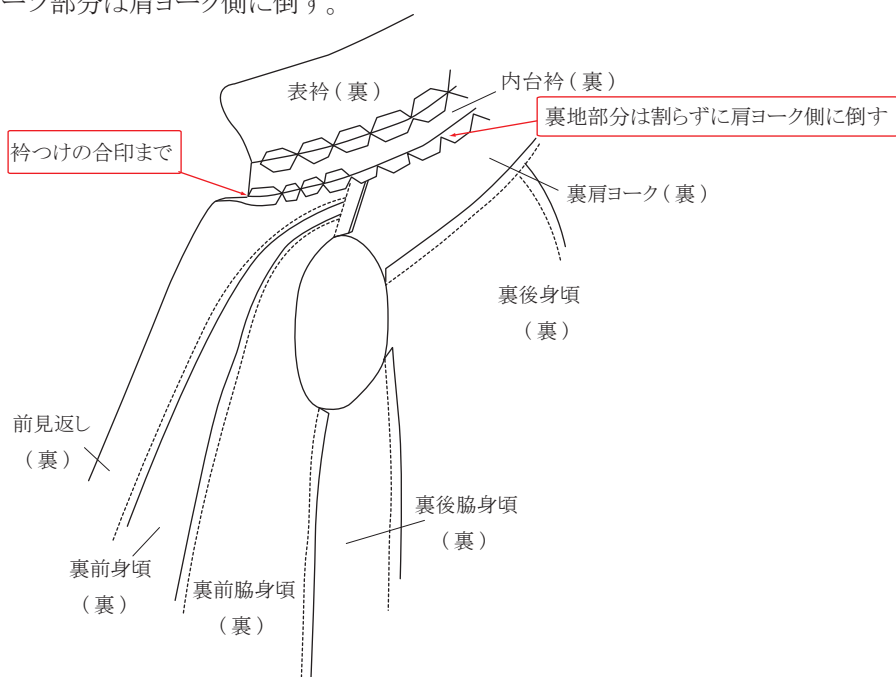


2、内台衿と身頃を 1.0 cm で縫う。

衿のカーブが立体的で縫いにくい場合は、しつけをかけるとよい。

縫い代に切り込みを入れ、前見返し部分は割り、

他の裏地パーツ部分は肩ヨーク側に倒す。

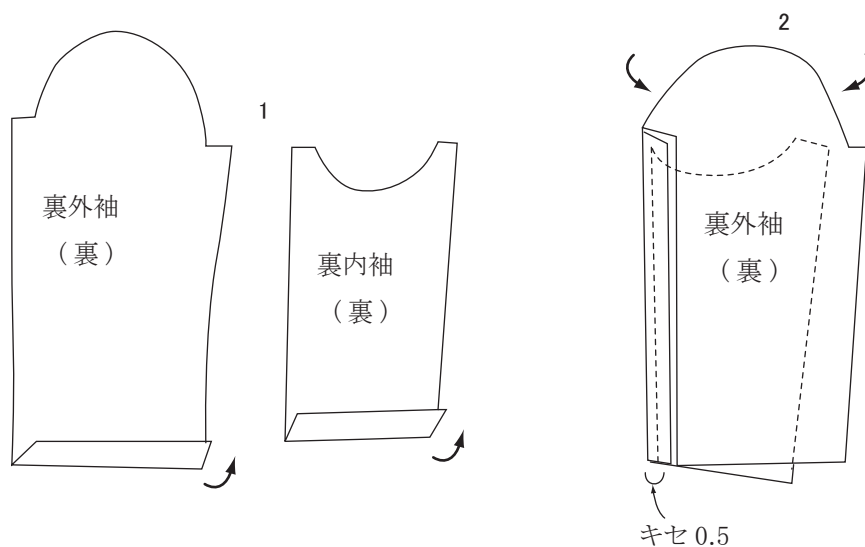


【袖つけ】

1、外袖、内袖の袖口縫い代 2.0 cmを、アイロンで折り目をつけておく。

*2.0 cmで折っておけば、後で縫い合せた時に自然にキセが 1 cm入る。

2、外袖、内袖を中表にし、両側をそれぞれ縫い代 1.0 cmで縫い合わせる。外袖側に倒し、キセ 0.5 cm。



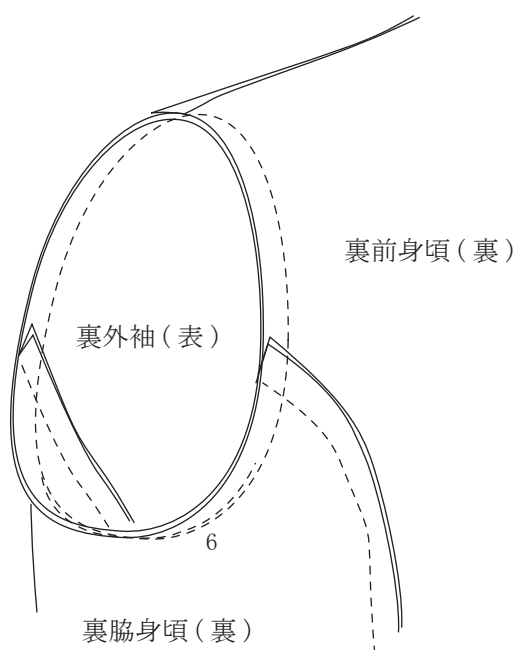
3、身頃のキセのかかった部分が開かないように、ピンで留めるかミシンで仮止めする。

4、袖山部分をぐし縫いし、イセ分を縮める。(表身頃よりもイセは少ない)

5、裏身頃と袖を中表にし、合印をしっかりと確認しながらピンで留める。

6、ゆっくりミシンをかける。縫い代は 1.0 cm。袖底は二度縫いする。

7、縫い代は袖側に倒す。 → 裏パーツの完成



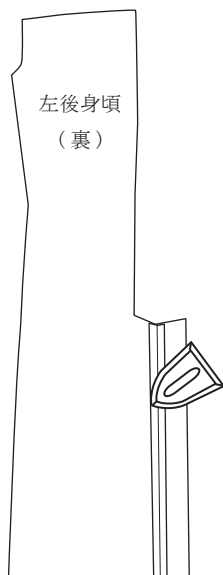
* 裏袖付けはしつけで仮止めして表パーツと一緒に着用してみましょう。

サイズ感がわかるので身幅、肩周りの調整などはここで確かめます。

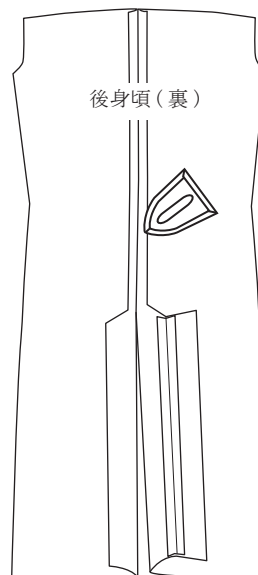
③表パーツ組み立て

【後身頃】

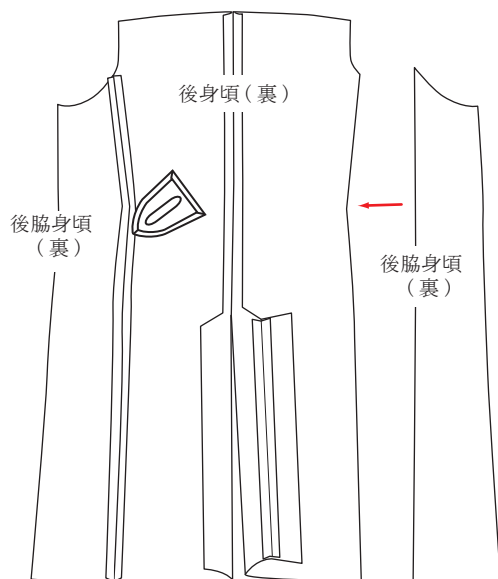
1、後左身頃のベント持ち出しを
1.0 cmで縫い、縫い代を割る。



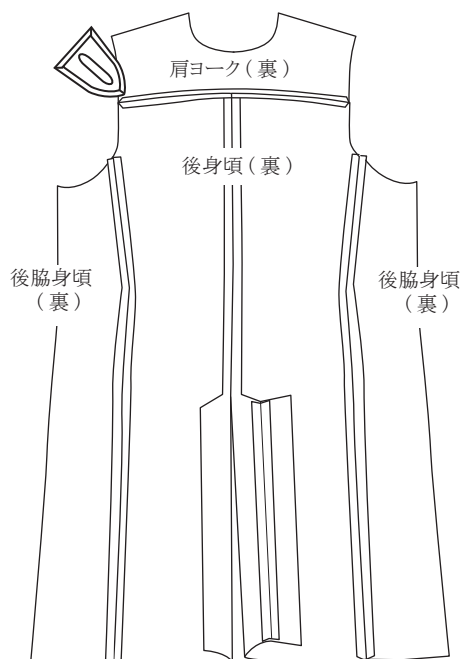
2、上端～ベント止まりまで縫い代2.0 cmで縫い、
縫い代を割る。



2、後身頃と後脇身頃を 1.5 cmで縫い、
縫い代を割る。

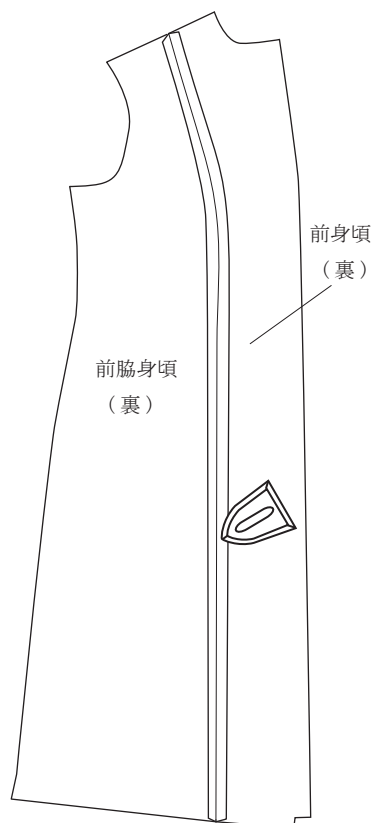


3、後身頃＋後脇身頃と肩ヨークを 1.0 cmで縫い、
縫い代を割る。



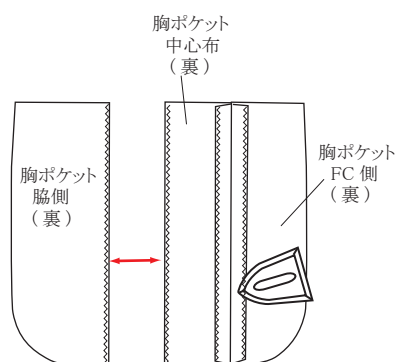
【前身頃】

- 1、前身頃と前脇身頃を1.5 cmで縫い、縫い代を割る。

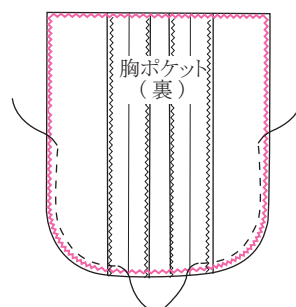


【胸ポケット】

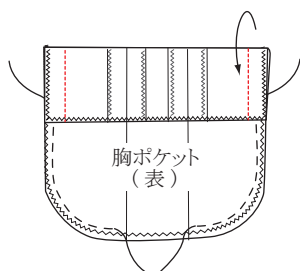
- 1、胸ポケットの左、中、右部分を1.0 cmで縫い合わせ、縫い代を割る。



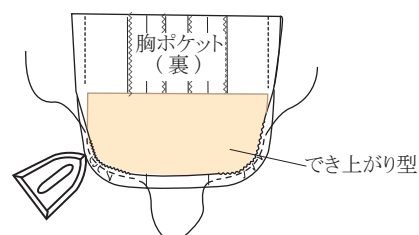
- 2、つながったポケットの回りにロックをかけ、カーブの部分に粗いミシンをかけておく。



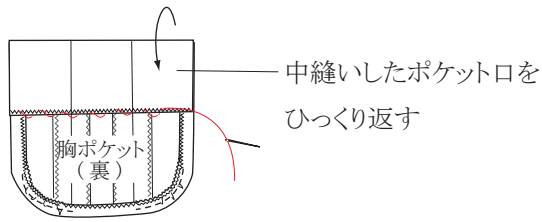
- 3、ポケット口の縫い代を、1.0 cmで中縫いする。



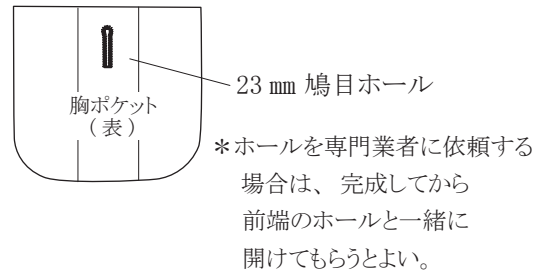
- 4、厚紙で作ったでき上がり型を入れて、ポケットの縫い代1.0 cmを折る。



5、ポケット口をまつる。



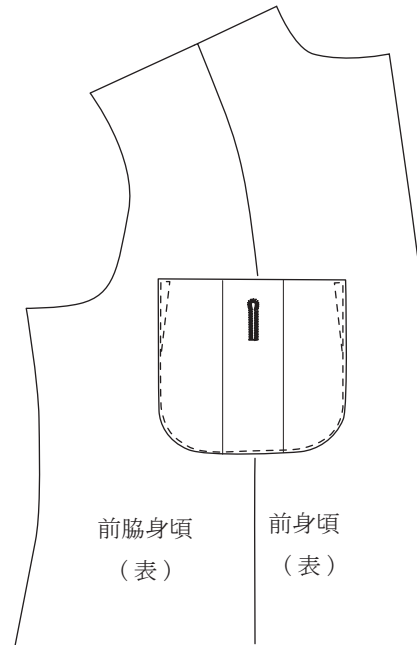
6、ポケットにボタンホールを開ける。



7、身頃にポケットをハンドステッチで縫いつける。

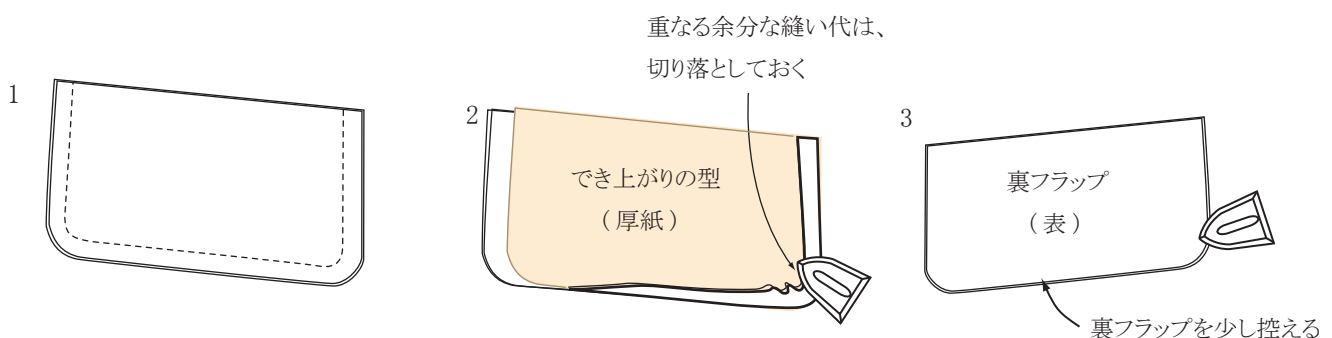
30 番ステッチ糸や刺繍糸 3 本取りなど、使用する糸は好みで良い。

- *目が詰んでいたり、毛足があつたりしてハンドステッチが綺麗に乗らない素材の場合は、ミシンステッチで縫いつけても良い。
- *3 枚接ぎのポケットなので、チェックなど柄によっては中央をバイアス裁ちにするなど、アレンジするのもよい。
- *3 枚接ぎにせずに、1 枚布のポケットにしてもよい。
- *ステッチ糸を同色でなく、好みの配色にするのもよい。



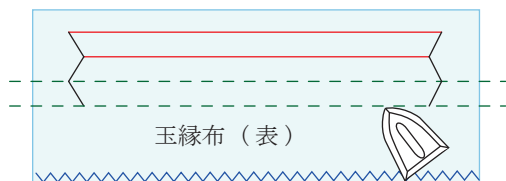
【フラップ付き片玉縁ポケット】

- 1、フラップ表裏を中表に合わせ、周囲を 1.0 cm の縫い代で縫う。
(裏フラップが小さいので、生地端を合わせて縫う)
- 2、縫い代を粗ミシンかぐし縫いして縮め、出来上がりの型を入れて綺麗なカーブに整えてから、ひっくり返す。
- 3、表に返して形を整える。フラップ裏が控えられた状態になる。
左右の FC 側を間違えないように、印をしておくとい。

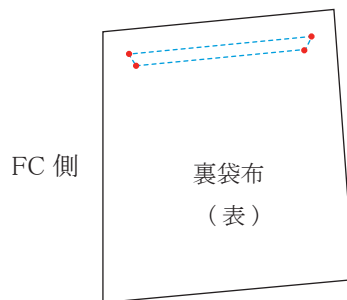


4、ポケット口に印（赤）をつける。

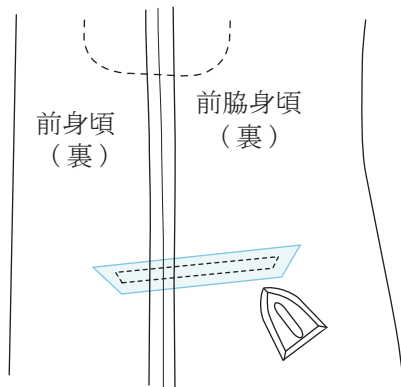
玉縁の上がり線（緑点線）にアイロンで折り目をつけておく。



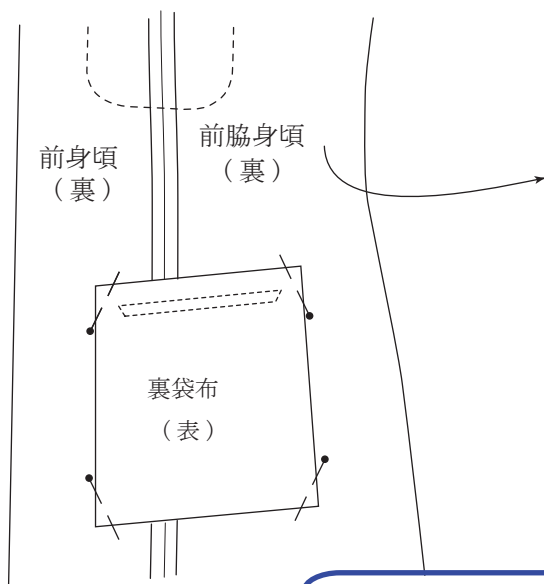
5、裏袋布にポケット口の角の印をつける（目打ちなどで）



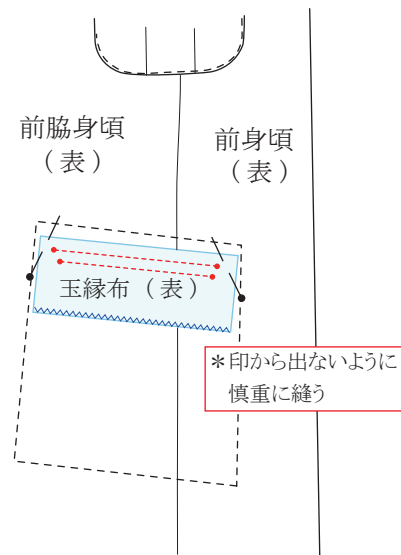
6、ポケット位置に補強の芯を貼る。



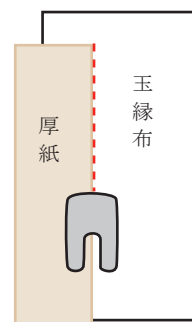
7、身頃の裏面に裏袋布をピンかしつけて止める。
袋口の位置を確認して止めること。



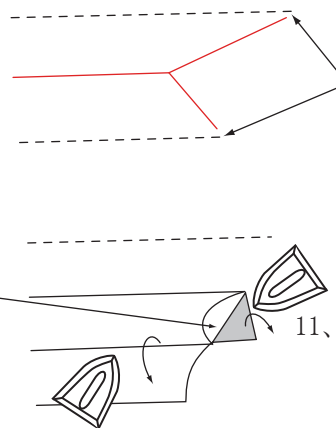
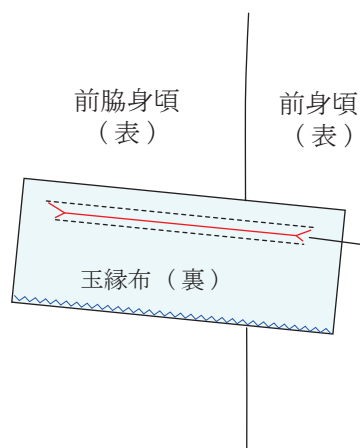
8、表に返して、玉縁布を中表に合わせる。
ポケット口の角の印を合わせてピンで止め、
袋口の上下（赤点線）を縫う。



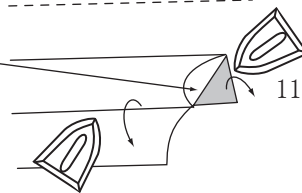
*ミシンで縫うときは、布がずれないように
ミシンの押え金と玉縁布の間に
厚紙（ハガキ等）を置き、布がずれるのを防ぐ。



9、ポケット口に切り込みを入れる。

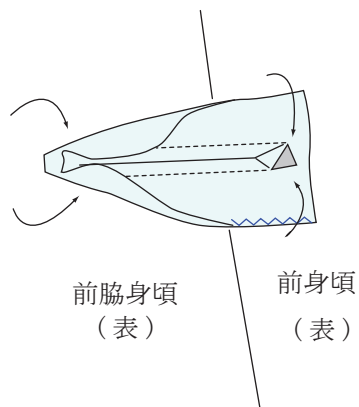


10、玉縁布、身頃、袋布 3 枚に
しっかり切り込みを入れる。
ポケット口の印1mm手前まで
端を三角にカットする。

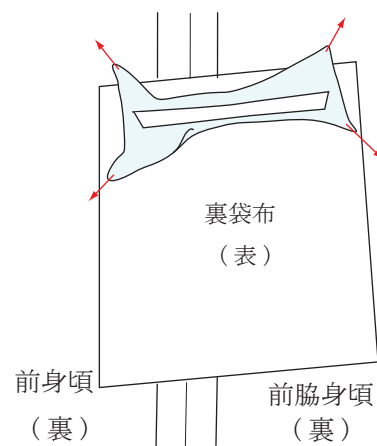


11、ポケット口の縫い代を割ってプレスする。
(身頃と玉縁布の縫い目を割る)

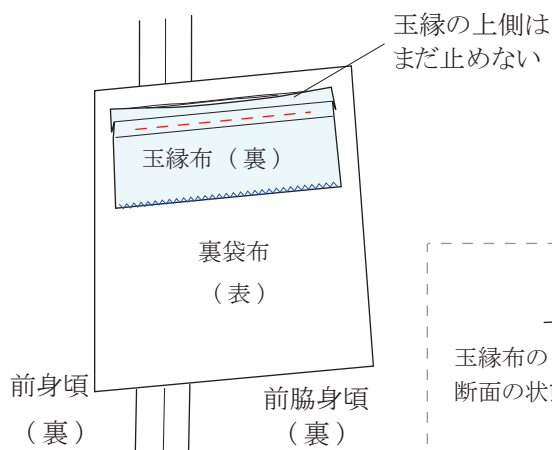
12、玉縁布の端を切り込みから裏に入れる



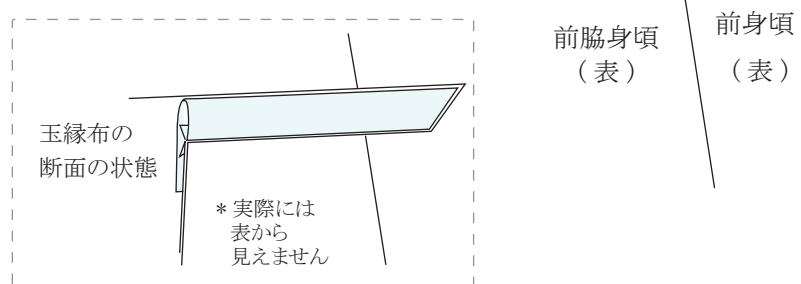
13、玉縁布を袋布の側へ引っぱり出す。
ポケット口の角をきちんと整える。



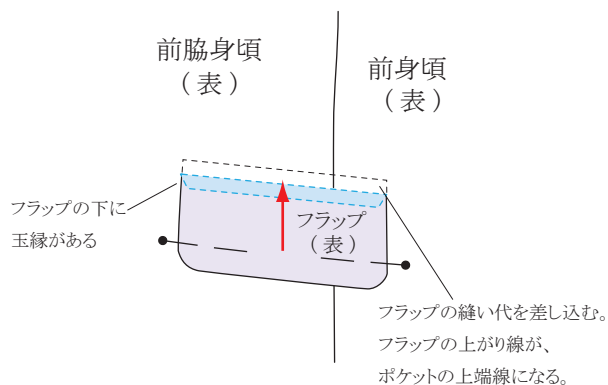
14、玉縁布をでき上がりに折り、
形を整えてしつけをかける。



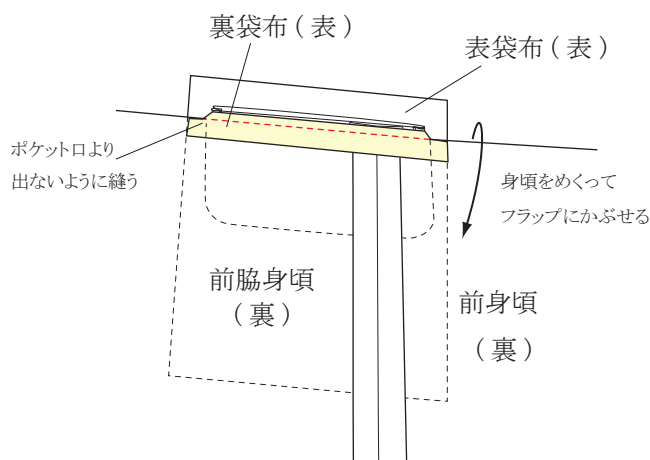
15、玉縁布を袋布に止める。
表から接ぎ目にミシステッチ。
縫ったらしつけを外す。



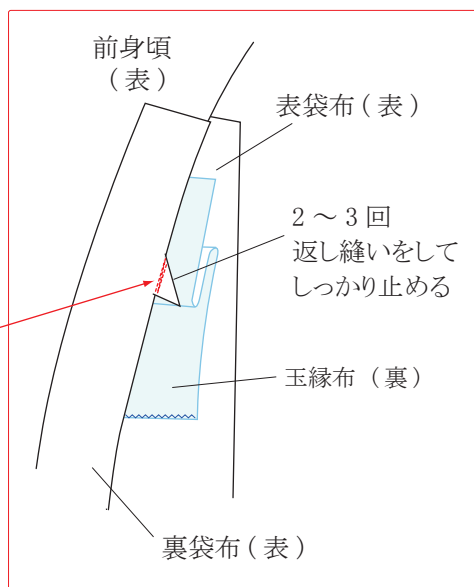
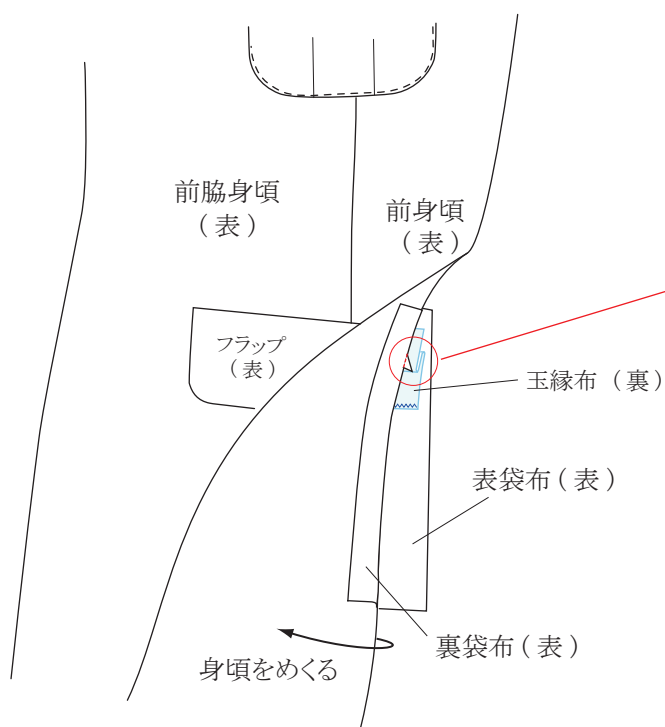
- 16、ポケット口にフラップをはさみ
ピンかしつけて留める。



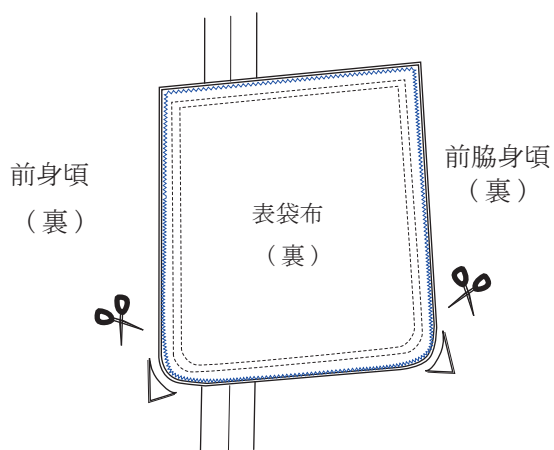
- 17、身頃を下にめくって表袋布を中表に重ね、
しつけをしなかった玉縁布の上側を縫う。
玉縁の上側の縫い目に重ねて縫う。



- 18、身頃を横にめくってポケット口の三角部分を縫う。

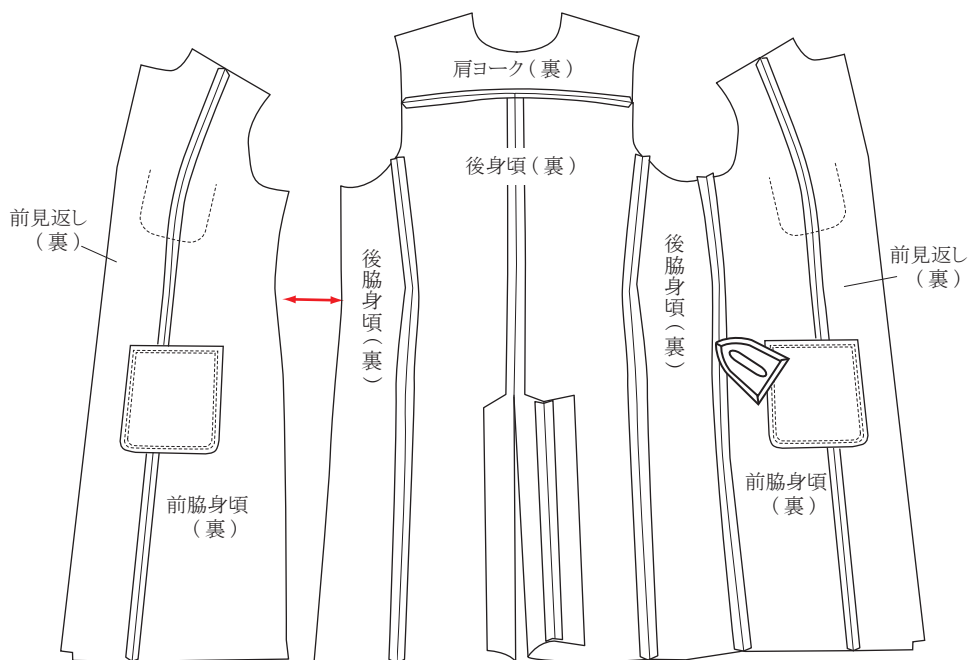


19. 身頃をよけながら、袋布周りを2周縫う。
角の余分をカットし、周りをロック始末する。

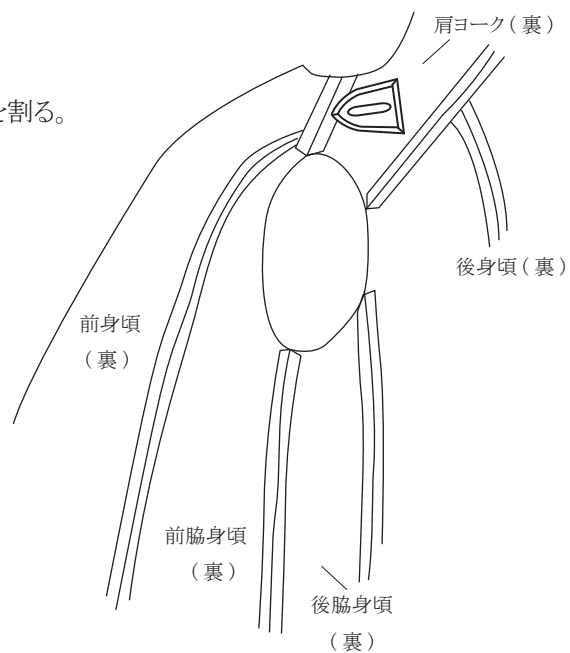


【前後身頃縫い合わせ】

1、前後身頃の脇を 1.5 cm で縫い、縫い代を割る。



2、前後身頃の肩を 1.0 cm で縫い、縫い代を割る。

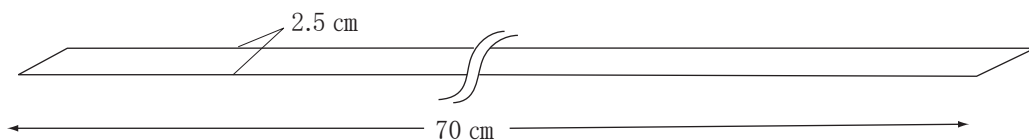


【裾裁ち端始末】

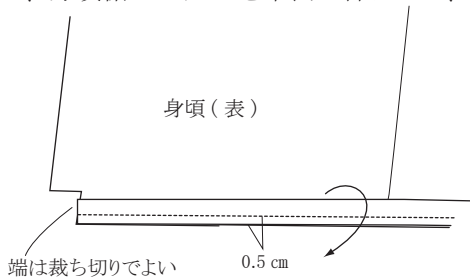
1、裏地の残りで 2.5 cm × 70 cm のバイアスを、2 本作る。

表生地 of 厚みによって、幅は多少調整するとよい。

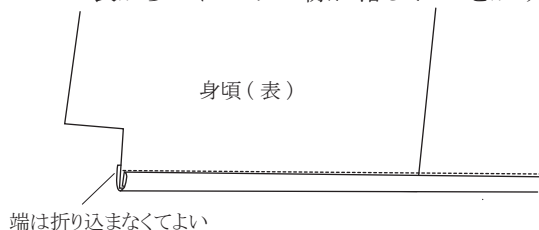
長さが足りない場合は、途中で接いでもよい。



2、身頃裾とバイアスを中表に合わせて、0.5 cmで縫う。

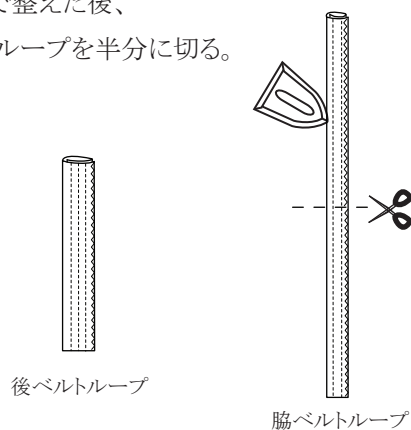


3、バイアスを三つ折りにして裾を包み、表からパイピングの際に落としミシンをかける。

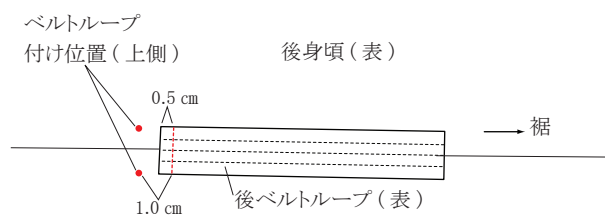


【ベルトループつけ】

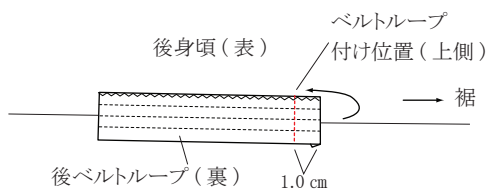
1、後ベルトループと脇ベルトループをそれぞれ三つ折し、ステッチをかける。アイロンで整えた後、脇ベルトループを半分に分ける。



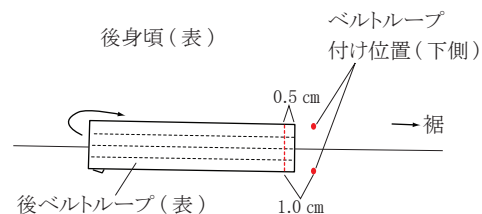
2、ループ付け位置を確認し、まず上の印から1.0 cm下を、端から0.5 cmの縫い代で縫う。



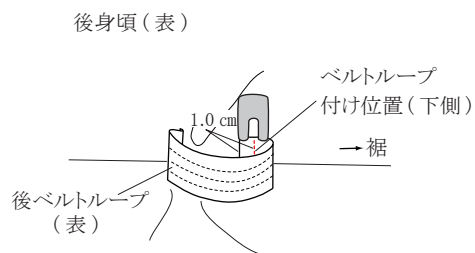
3、縫い目から上に折り返し、ループ付け位置を縫う。



4、再度表に返し、ループ付け下の印から1.0 cm上を、端から0.5 cmの縫い代で縫う。

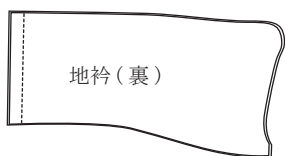


5、ループ付け位置に合わせて、下側を縫う。少々縫いにくい、ループをめくるようにして、押さえ金を入れ込んで縫う。

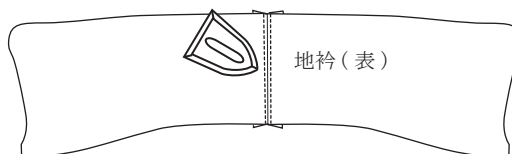


【衿つけ】

1、地衿を中表に合わせて1.0 cmで縫い、縫い代を割る。

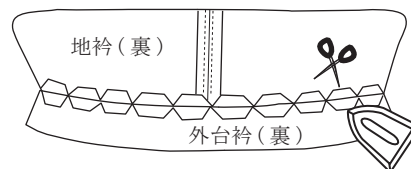
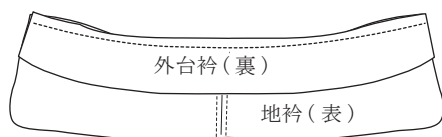


2、縫い目の両側に表からコバステッチをかける。



3、地衿と外台衿を合印を合わせて1.0 cmで縫う。

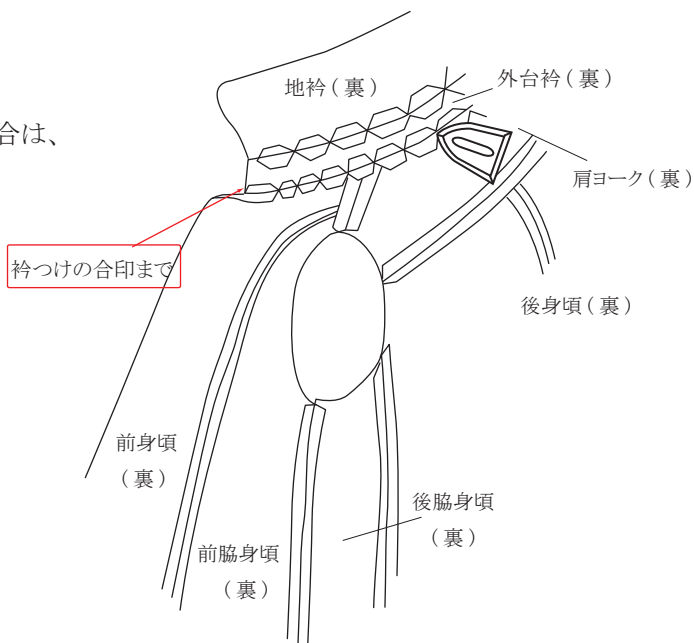
縫い代に切り込みを入れて割る。



4、外台衿と身頃を1.0 cmで縫う。

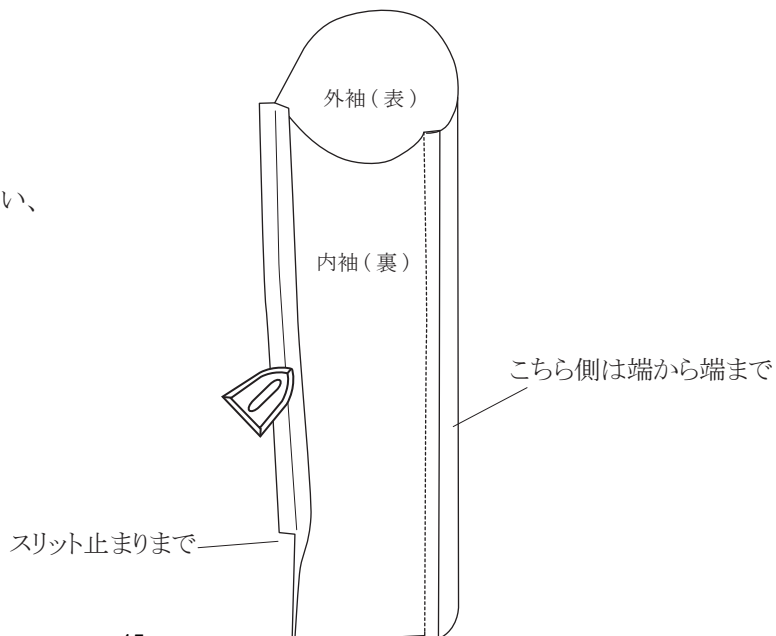
衿のカーブが立体的で縫いにくい場合は、しつけをかけるとよい。

切り込みを入れて縫い代を割る。

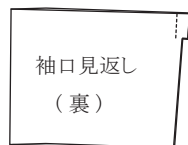


【袖つけ】

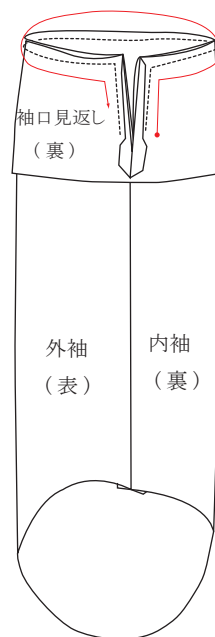
1、外袖と内袖の両側を1.5 cmの縫い代で縫い、縫い代を割る。



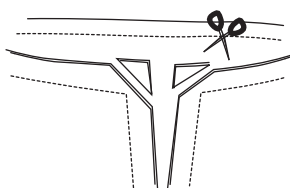
- 2、袖口見返しをスリット止まりまで
1.5 cmで縫い、縫い代を割る。



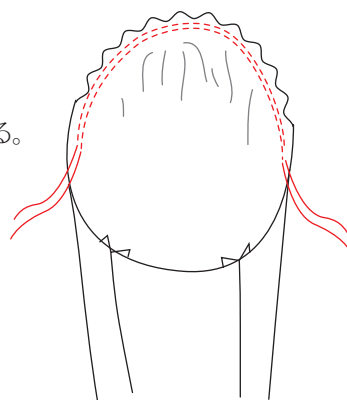
- 3、筒状になった袖と袖口見返しを重ね、
袖口をスリット止まりまで 1.0 cmで縫う。



- 4、縫い代の角をカットし、
アイロンで縫い代を折り込んで、
見返しをひっくり返す。

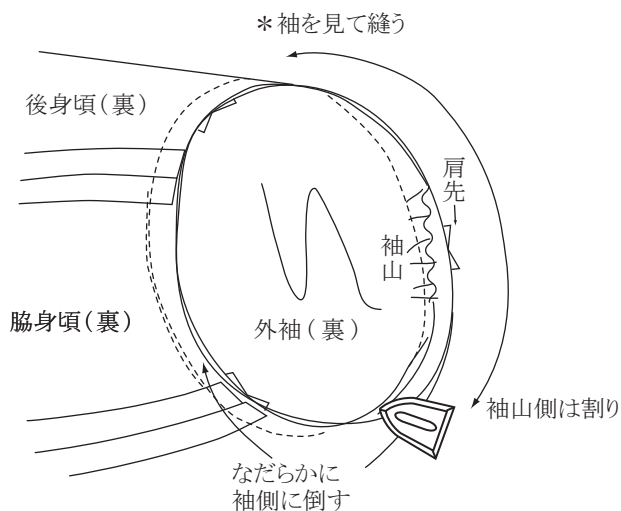


- 5、袖山の縫い代側に、少し粗い針目で2本 (0.4 cmと0.7 cm) ミシンをかける。
イセ分があるので袖が余るが、縫ったミシンの糸を引っ張ることで
距離を合わせる。



- 6、アイロンでイセを落ち着かせ、袖と身頃の合印を合わせてピンで止める。
7、縫うときは袖を見ながら、目打ちでイセをなじませながら縫う。
* 袖底は6 cmほど縫い重ねる。

- 8、袖山側の縫い代は割り、合印より袖ぐり側は
袖側に倒す。



* ここが補正ポイントです。

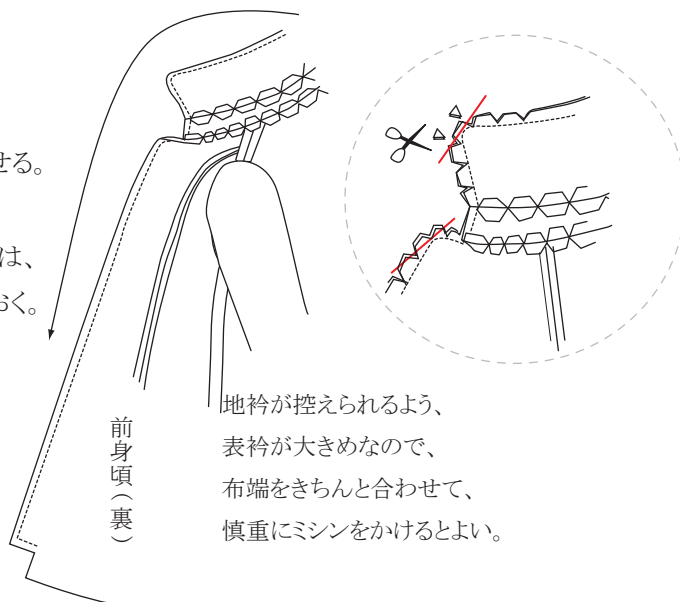
袖付けはしつけで仮止めして、裏面パーツといっしょに着用してみてください。

本縫いで袖を付ける前に肩周り、バスト寸などをたしかめましょう。

⑤表裏パーツ合体

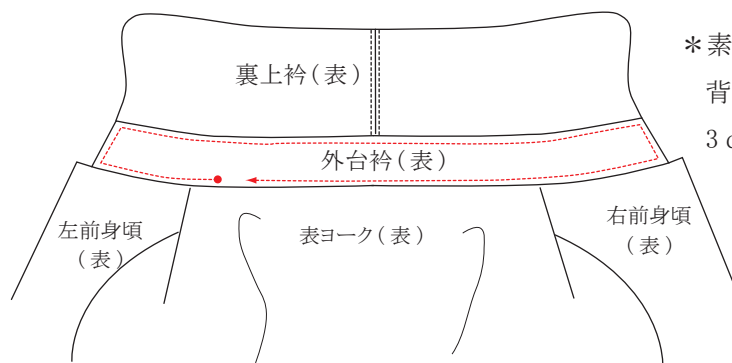
【表裏身頃縫い合せ】

- 1、 前端と衿端を中縫い止りまで、1.0 cmで縫い合わせる。
* 衿の中心から左右に向けて、2回に分けて縫う。
- 2、 カーブのきついく衿の角や前端的カーブの縫い代は、余分をカットし縫い代をカーブに沿ってプレスしておく。
- 3、 カーブ以外の縫い代は細い袖万など使って、アイロンでしっかり割り。表にひっくり返す。



【台衿ステッチ】

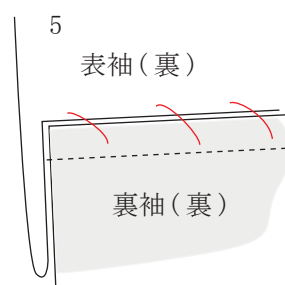
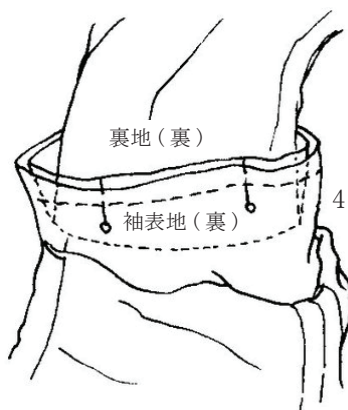
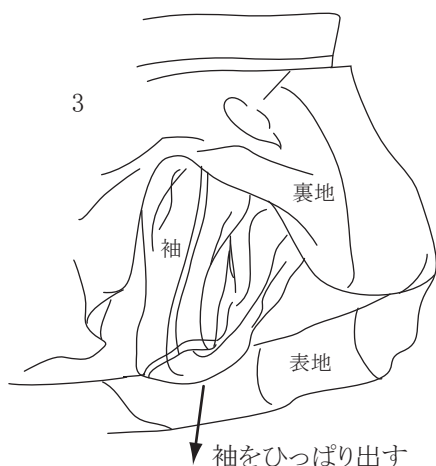
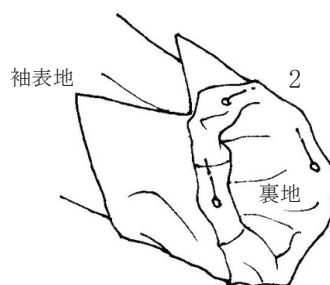
- 1、 縫い合わせた表裏身頃をひっくり返して、アイロンで衿周りを整える。
- 2、 台衿にステッチをかける。



* 素材により台衿にステッチを入れない場合は、
背中心の台衿と肩ヨークの縫い代を、
3 cmほど中とじする。

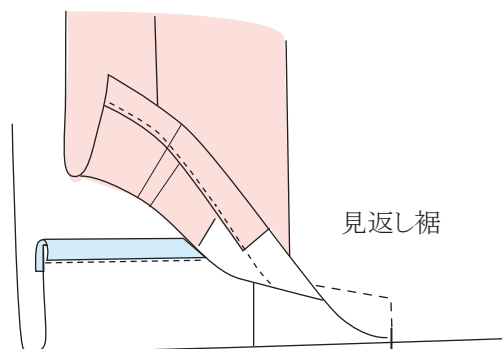
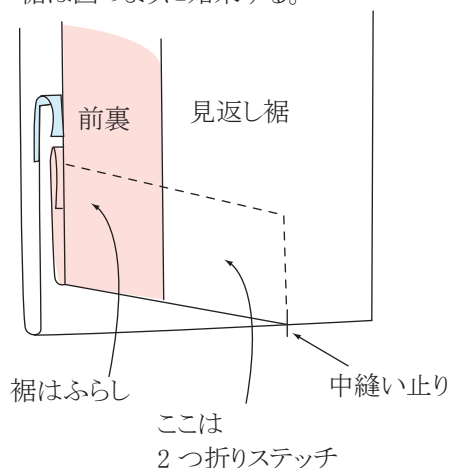
【袖中とじ】

- 1、 袖を出来上がった状態（裏地が表地の中に通った状態）にしてみる。
- 2、 ねじれないように整えてから袖をめくり、袖切り替えと裏地をピンで止める。
- 3、 身頃の裾の裏地と表地の間から、袖をひっぱり出す。
- 4、 ひっぱり出した袖切り替えと裏袖を中表に合わせなおし、
1.0 cmで縫い合わせる。縫い代は裏地側に倒す。
- 5、 縫い代を表地にしつけでゆるく止める。（中とじ）
- 6、 表に返してアイロンで整える。



【前裾周り始末】

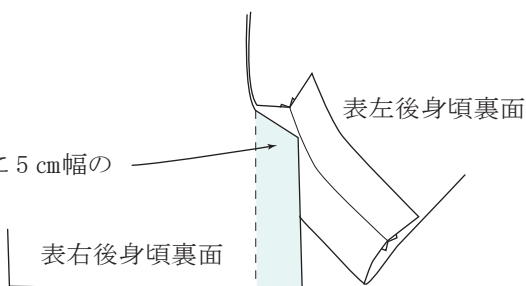
- 1、 前端的縫い代をしっかり割り、角の縫い代の余分をカットして 身頃をひっくり返す。
裾は図のように始末する。



【BC ベント】

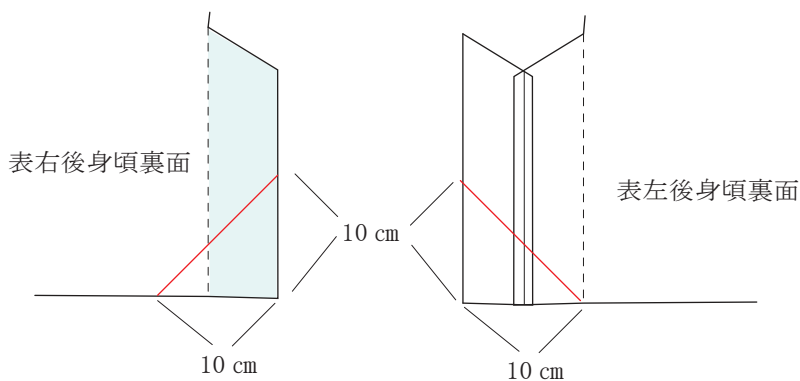
- 1、 見返し側のみ 5 cm幅の芯を貼る。

見返しのみ裏に 5 cm幅の
芯を貼っておく



- 2、 見返し、持ち出しの裾をガクブチ仕上げする。

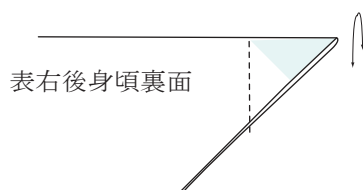
図のようにガクブチ仕上の線を引く。



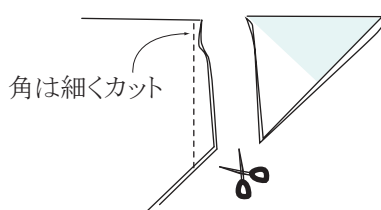
* 持ち出しが表ベントより飛び出さないように仕上げるのが大切。

片方のベントを仕上げたら、
ベント止まりからの寸法を計って、
もう一方はそれに合わせるとよい。

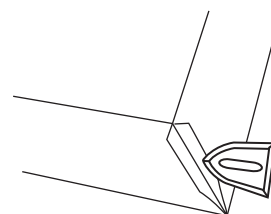
- 3、 身頃を斜めにたたんで、
ガクブチ仕上の線を縫い合わせる。



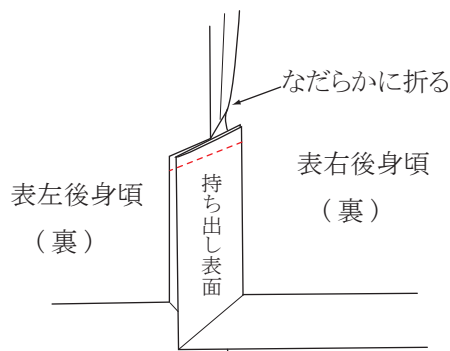
- 4、 余分な縫い代をカットする。



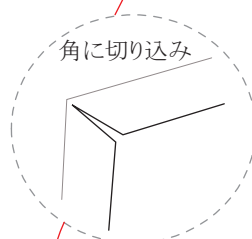
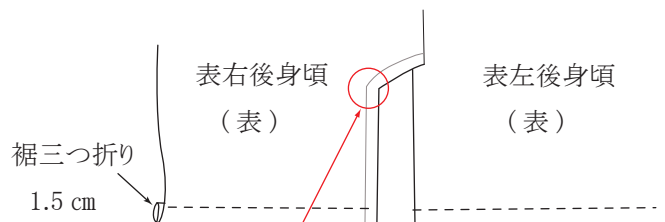
- 5、 アイロンで縫い代を割り、
表にひっくり返す。



- 6、裏地と縫い合わせる前に、見返しと持ち出しの上側の縫い代をミシンで仮止めしておく。(見返し、持ち出しのみ縫う)

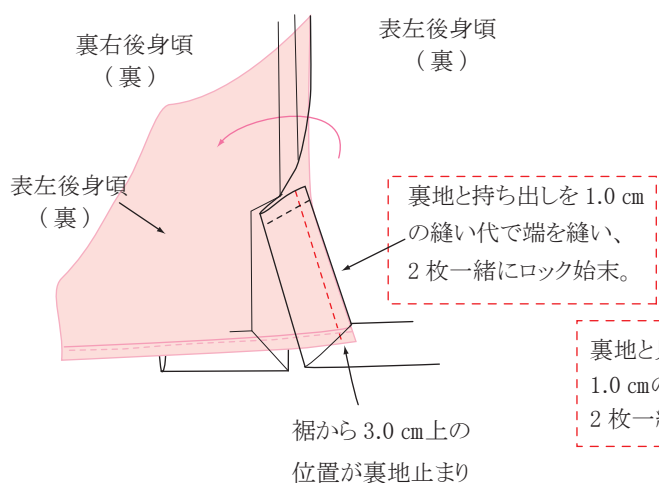


- 7、裏地のパターンは左右共通なので、裏左身頃はベントの上がり線に縫い代1.0 cmを加えてカットする。

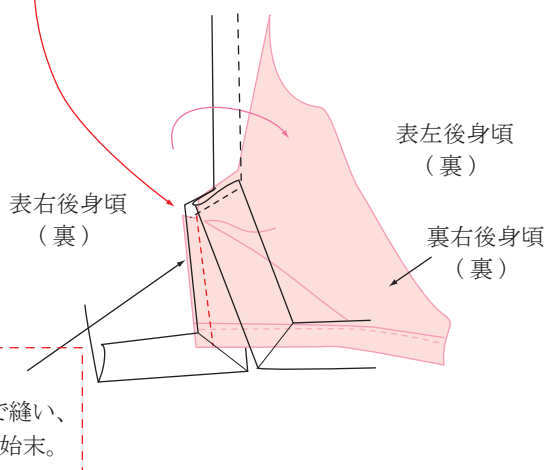


- 8、裏地裾をめくって、表裾のベントと裏裾のベントを中縫いする

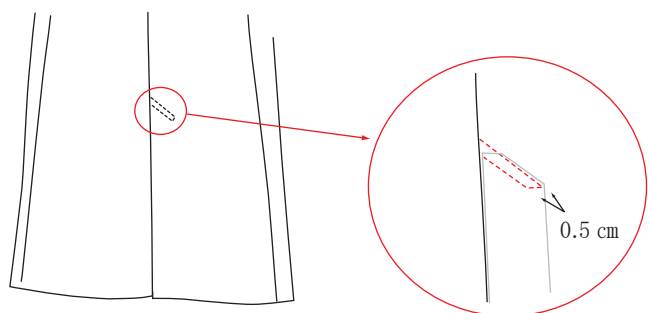
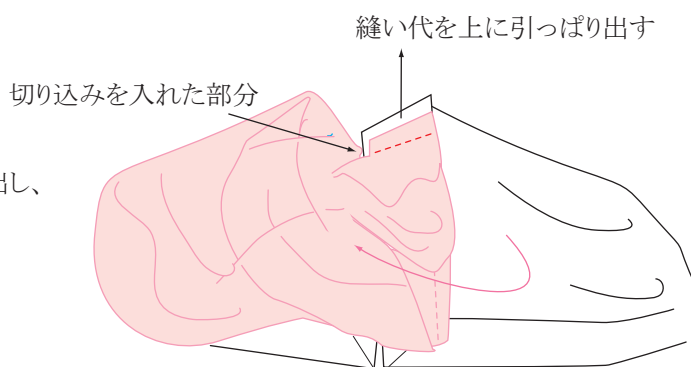
持ち出し側



見返し側



- 9、裏地を右にめくり、ベントの上の縫い代を引っ張り出し、持ち出し、見返し、裏地を一緒に縫う。



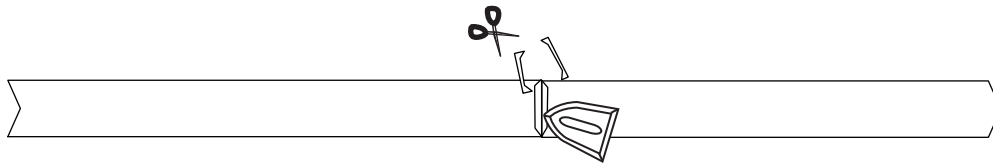
- 10、アイロンでベントを整えて、裾のラインがきちんと揃っているか確認する。(持ち出しが見返しより飛び出ないように)

- 11、ベント見返しの上のラインに沿って、表から裏地まで通して0.5 cmのステッチをして完成。

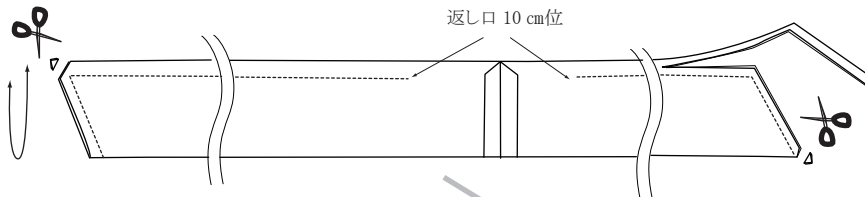
⑥まとめ

【ベルトづくり】

1、左右ベルトを中表に合わせて1.0 cmで縫う。余分な縫い代をカットして縫い代を割る。



2、さらに幅を半分折り、中央返し口を残して1.0 cmで縫う。余分の縫い代をカットする。

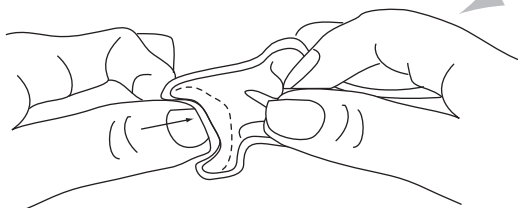


4、ループ返しで返し口からひっくり返す。

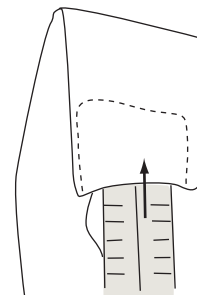
その他、細い棒状のものを使って押し出す方法もある。

ベルトは硬芯なので少しやりにくい、
ひっぱり出すより押し出す方が、幾分楽です。

3、縫い代を一度軽く割ってから、
アイロンで角をしっかり折る。

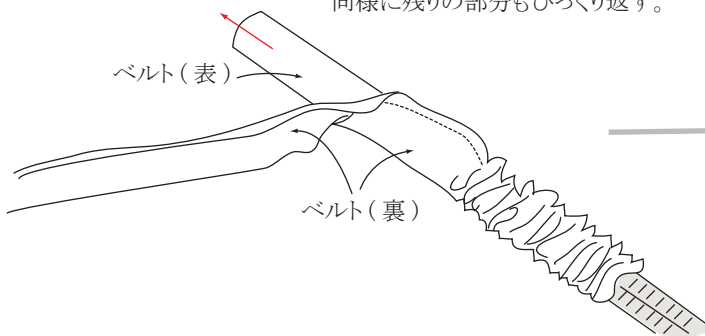


筒状に縫い合わせた中に、
アイロンで折った衿先を指先で押し込む。

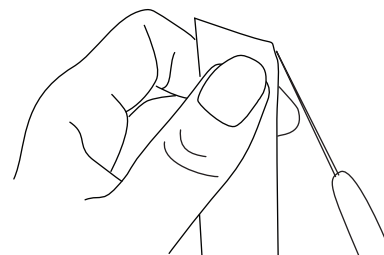


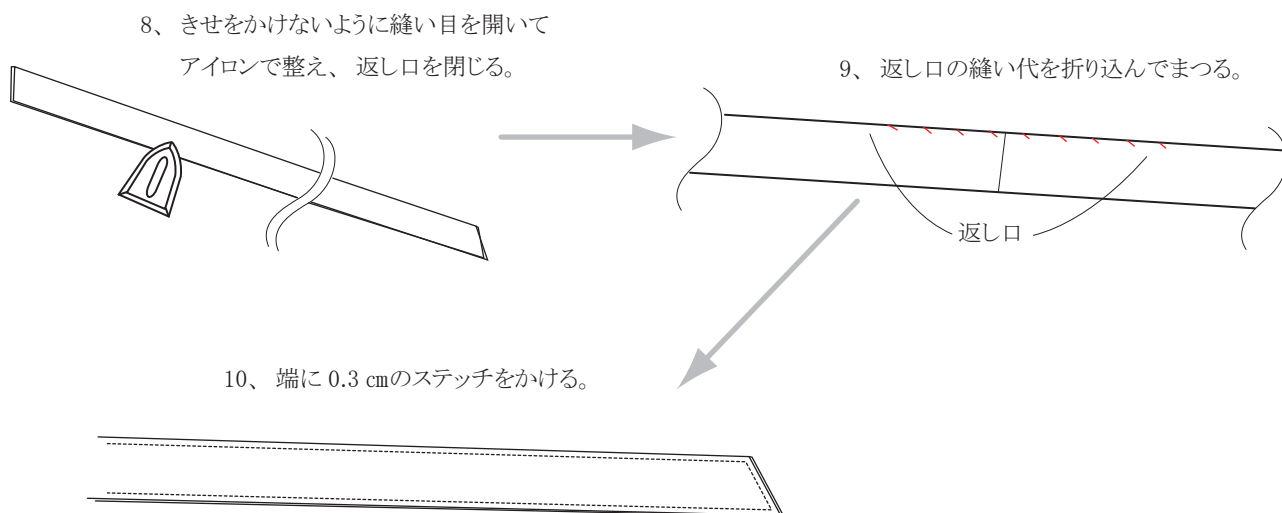
5、さらに細い棒や定規などで、衿先を筒の中に押し込む。

6、中央部分の返し口まで、
角が押し出されたら棒（定規）を抜き、
手で少しずつ引っ張り出す。
同様に残りの部分もひっくり返す。



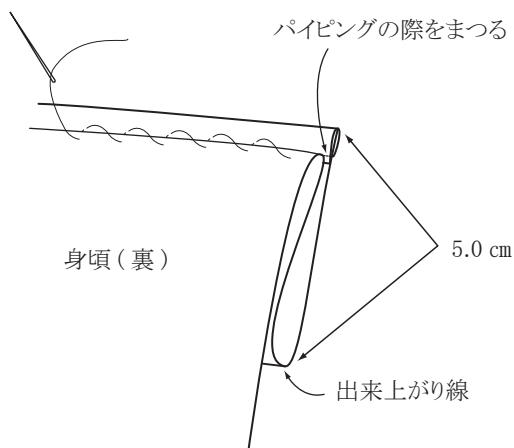
7、目打ちや太い針など尖った物で（繊維を傷めないように）
慎重に角を引っ張り出して、形を整える。





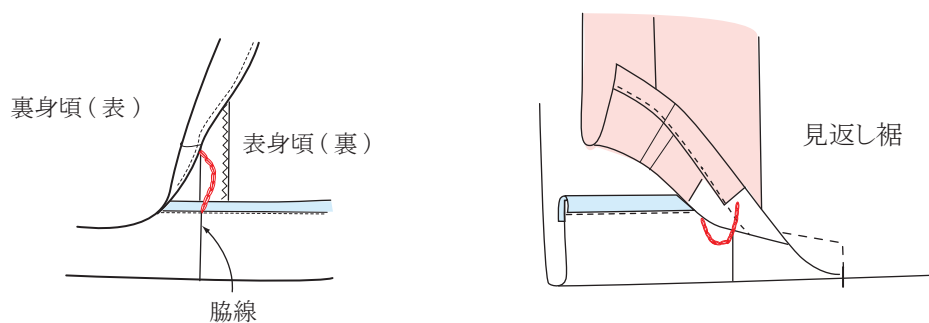
【裾まつり】

折り上げておいた裾を手でまつる。



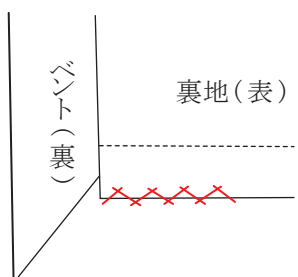
【糸ループ】

表身頃と裏身頃の脇裾と見返し横部分を、糸ループ（2.5 cm位）でつなぐ。



【千鳥がけ】

裏ベント裾端を千鳥がけで表ベントに止める。
（見返し、持ち出し共）



【ボタン付け、ボタンホール】

型紙を置いてボタン位置を確かめ、印を付ける。

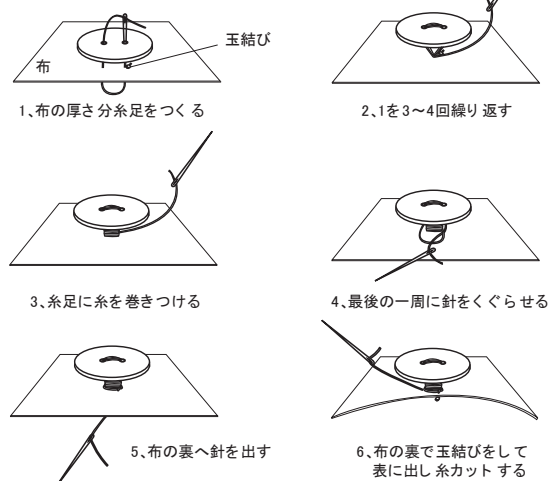
＊ボタンは前端に5つと胸ポケットに2つ。

26 mm 鳩目ホールを右前身頃、23 mm ボタンを左前身頃に。

23 mm 鳩目ホール胸ポケット、20 mm ボタンを前身頃に。

＊ボタンホールは専門店で依頼すると完成度が上がる。

ボタン付け



⑦仕上げアイロン

仕上げアイロンをして完成。



Vita